

学 会

**第 22 回吉岡弥生記念講演
(第 334 回東京女子医科大学学会例会)**

日 時：平成 18 年 5 月 22 日 (月) 13:45~16:00

場 所：東京女子医科大学 弥生記念講堂

(司会) 幹事 尾崎 眞

平成 18 年度吉岡弥生研究奨励賞授与式 13:45

挨拶

選考経過報告

吉岡弥生研究奨励賞授与

成人のアトピー性皮膚炎患者における quality of life と
皮膚ボディイメージとの関係について

前年度受賞者研究発表 14:00

難治性膵疾患の病態の解明と新しい治療の開発に関する研究
職域におけるインフルエンザワクチンの有効性

第 22 回吉岡弥生記念講演 14:30

挨拶

弥生先生を語る

女医の花道！—東京女子医大で学んで—

学 長 高倉公朋

選考委員 立元敬子

女性生涯健康センター 檜垣祐子

(座長) 副会長 高野加寿恵

消化器内科学 清水京子

衛生学公衆衛生学 (二) 小島原典子

(座長) 会 長 高倉公朋

理事長 吉岡博光

名誉教授, 昭和 20 年卒業生 石津澄子

内科医, 執筆家, 平成 1 年卒業生 おおたわ史絵

**難治性膵疾患の病態の解明と新しい治療の開発に
関する研究**

(消化器内科学)

清水京子

慢性膵炎とは、膵の持続的な炎症と進行する線維化により膵内外分泌傷害を来す難治性の疾患である。膵の線維化には膵周囲に存在する膵星細胞が関与し、サイトカインやケモカインなどによって膵星細胞が活性化され筋線維芽細胞様の特徴を有し、細胞外基質の産生や遊走能が亢進して線維化を促進する。本研究では膵線維化の新しい機序と治療法の可能性について報告する。膵の線維化は炎症性サイトカインや TGF- β によって増悪するが、インスリン抵抗性改善薬である PPAR γ ligand を自然発症慢性膵炎ラットに長期間投与すると慢性膵炎の進展が抑制された。同様に膵星細胞に PPAR γ ligand を投与すると細胞周期の G1 arrest を誘導して増殖を抑制し、細胞外基質の産生も抑制した。また核内転写因子の PPAR γ の結合部位を持つ CD36 が膵星細胞に発現し、CD36 を介して膵星細胞がアポトーシス好中球を貪食することを証明した。アポトーシス好中球を貪食した膵星細胞はそれ自身の増殖能が低下

し、分泌される TGF- β 濃度も低下した。また、膵星細胞はアポトーシス腺房細胞も貪食し、貪食後の膵星細胞はそれ自身が細胞死に陥ることが確認された。以上の結果から、膵星細胞の貪食能は有害な物質を排除し、炎症の進展や線維化に抑制的に作用すると考えられる。

職域におけるインフルエンザワクチンの有効性

(衛生学公衆衛生学 (二)) 小島原典子

インフルエンザワクチンは、高齢者に対して肺炎・死亡など重症化を予防するといわれ、特に施設入所者に対して有効であるという報告が多い。わが国でも、65 歳以上に対して公費補助が始まり、接種率は 2003~2004 シーズンで約 45% まで上昇している。近年、企業の中にも福利厚生の一環としてインフルエンザワクチンを接種している事業所が増えていくが、対費用効果は認めるものの、18~60 歳の勤労世代におけるインフルエンザ発症の予防を検討した疫学研究は少ない。今回われわれは、栃木県の 1 製造工場 (従業員 459 名: 男 408 名, 女 51 名) において、企業で希望する従業員に対して行ったインフ

ルエンザワクチンの効果を、37度以上の発熱、欠勤状況とともに、医務室でインフルエンザ迅速診断を行うことによりインフルエンザ発症の前向き観察により検討した（ワクチン接種の実費800円は従業員負担）。また、文書による同意の得られた256名に対しては、ワクチン接種前後、シーズン末の計3回採血を行い、インフルエンザワクチンの有効性を血清学的に検討する。また、シーズン末には、インフル

エンザに対する認識、インフルエンザワクチンを接種した理由等の質問表調査も予定している。

2006年2月現在、37度以上の発熱を伴うinfluenza-like diseaseは21名、迅速診断によりインフルエンザの確定診断を受けたものは1名であり、引き続きアウトカムを収集中である。また、インフルエンザ抗体の測定は4月に予定している。